

自己評価の方法等について

高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会

独立行政法人大学評価・学位授与機構

1

自己評価書の構成

対象高等専門学校の現況及び特徴

目的

基準ごとの自己評価

基準1～11の自己評価

選択的評価基準の自己評価

2

自己評価書の様式

大学評価・学位授与機構のウェブサイト
で配布している自己評価書様式ファイル
による

自己評価書様式ファイルは、一太郎版
MS-Word版を用意しているので、適宜
ダウンロードして使用

対象高等専門学校の現況及び特徴

現況 高等専門学校名
所在地
学科等の構成
学生数及び教員数

特徴

・高等専門学校の沿革・理念を踏まえ、また、目的の
背景となる考え方等も含め、高等専門学校の特徴が
表れるよう記述

・評価報告書に原文のまま掲載、公表

目的(意義と記載)

本評価における「目的」とは、高等専門学校¹の使命、教育研究活動等を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等をいいます。

- ・現在、周知・公表している「目的」、及びその「目的」から派生する内容も含めて、高等専門学校の個性や特色が評価に活かされるように記載
- ・認証評価を受ける時点での高等専門学校の掲げる「目的」を記載(改めて作成するものではない)
様式に適合するように文字数を制限にあわせるなどの整理は必要

7

目的と高等専門学校評価基準の関係

高等専門学校評価基準の内容は、高等専門学校の個性や特色が十分に発揮できるよう、高等専門学校が有する目的を踏まえて評価を行うよう配慮

目的の記載に、高等専門学校の個性や特色をあらわす



評価では、目的を踏まえることにより、高等専門学校の個性や特色を評価に反映

8

目的の記載に当たっての留意事項

高等専門学校として期間を定めた目標等を有する場合
目標等の達成度を自己評価に反映させることも可能。
その際には目標等の基本的な内容を目的と位置づけて記載することが必要

学科・専攻ごとの独自の目的がある場合

高等専門学校の共通の目的を記載した上で、学科・専攻ごとの独自の目的を記載する

選択的評価基準に係る目的(選択的評価基準の評価を希望する場合)

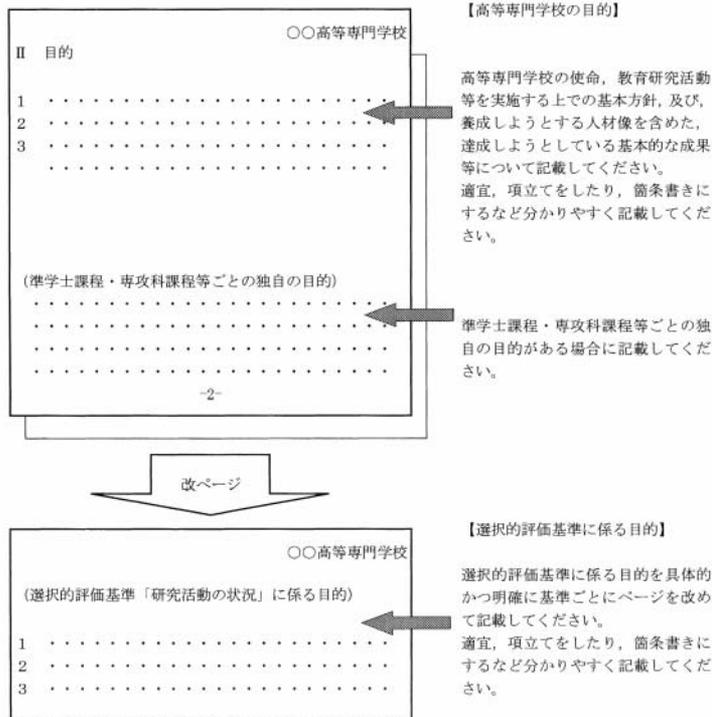
目的の達成状況等を評価することから、目的の内容をより具体的かつ明確に示すことが必要

9

目的の達成状況が非常に優れている	観点ごとの分析において、取組状況が非常に優れており、目的の達成状況が非常に優れていると判断される場合
目的の達成状況が良好である	観点ごとの分析において、取組状況が優れており、目的の達成状況が良好であると判断される場合
目的の達成状況がおおむね良好である	観点ごとの分析において、取組状況に改善すべきところはあるが、目的を達成する上で特に支障がなく、目的の達成状況がおおむね良好であると判断される場合
目的の達成状況が不十分である	観点ごとの分析において、取組状況に問題があり、目的の達成状況が不十分であると判断される場合

「目的」の様式等について

- ・適宜、項立て、箇条書きにするなど(評価者に)わかりやすく記載
- ・評価報告書に原文のまま掲載、公表(社会にわかりやすく記載)
- ・字数制限:4,000字以内(横50文字×縦40行×2ページ)
- ・選択的評価基準に係る目的は、別ページとし、1つの基準につき2,000字以内(横50文字×縦40行×1ページ)で、基準ごとにページを改めて記載
- ・明朝体9ポイントを使用



基準ごとの自己評価

13

基準 1 ~ 11 の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点に係る状況

分析結果とその根拠理由

(2) 優れた点及び改善を要する点の記述

(3) 概要の記述

自己評価では基準を満たしているかどうかの判断を行う必要はない

14

(1) 観点ごとの分析

- ・全ての「基本的な観点」について分析
- ・ただし、「…の場合」といった条件が付されているもので、それに該当しない場合には、分析の必要はない
「該当なし」と記載
- ・基本的な観点に加えて、高等専門学校の場合や目的に応じて独自の観点の設定が必要な場合には、各基準に対応した独自の観点を適切に設定
基本的観点により分析できるものは基本的観点でおこなう。

[Q&A Q83参照]
15

「観点到係る状況」の記述

- ・各観点到係る状況について、目的との関連を踏まえて、現在の状況の分析を記述
- ・高等専門学校全体としての状況の分析
必要に応じて学科・専攻科ごとの分析状況を踏まえる

・根拠となる資料・データ等を示しつつ記述

- ・ 近年に大きな変更等がない限り、基本的には現状の資料で対応可能
- ・ 各高等専門学校の場合や事項の内容等によっては、より十分な裏付けが得られると判断できる過去の状況まで遡及【Q&A Q91参照】
- ・ 既存の資料で十分に対応可能(自己点検・評価報告書等の必要な箇所の抜き出しや加工したものなど)

別紙2「自己評価の根拠となる資料・データ等例」(自己評価実施要項P19～39)を参考に高等専門学校で判断

17

根拠となる資料・データ等の記載方法

- ・本文中に記載した事項との関係が容易に確認できる位置に記載(資料・データの名称及び出典を明記)
- ・必要最小限に整理
(自己点検・評価報告書や外部検証(評価)報告書等は必要な箇所の抜き出しや加工したものなど)
- ・本文中に記載することで、読みにくくなる場合には別添として記載可能
- ・外部に持ち出すことが困難なもの等については、例示として必要最小限の範囲を記載 訪問調査時に確認
- ・根拠資料・データを本文中や別添として記載できない場合は機構に相談

【Q&A Q104～112参照】

18

観点1-1-①: 目的として、高等専門学校学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

【観点到る状況】

本校では創設時に学校の使命を定め、学則に掲げている(資料1-1-①-1)、時代により社会ニーズの変遷はあるもの、本校が社会において担う基本的な役割は同一であると考えているため、この使命は現在に至るまで貫かれている。

また、××年には、学校としての養成したい人材像及び学科ごとの養成したい人材像を定めるとともに(資料1-1-①-2)、卒業(修了)時に身につけるべき資質・学力を、より具体的に定めた(資料1-1-①-3)。さらに、△△年には、具体的な教育研究活動を実施するうえの方針を定めた(資料1-1-①-4)。

資料1-1-①-1
学則の該当箇所
(出典 ○○高等専門学校校則)

資料1-1-①-2
「養成したい人材像」策定の際の会議資料
(出典 平成××年×月○○会議資料)

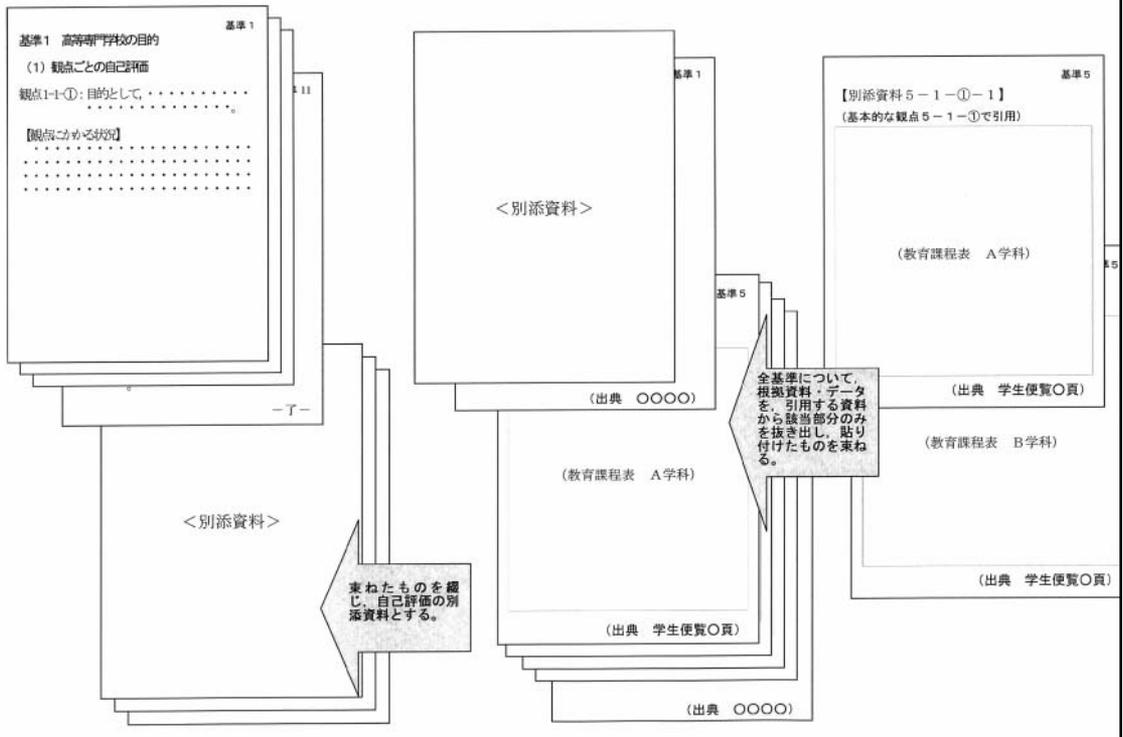
資料1-1-①-3
「卒業(修了)時に身につけるべき資質・学力策定」の際の会議資料
(出典 平成××年○月○○会議資料)

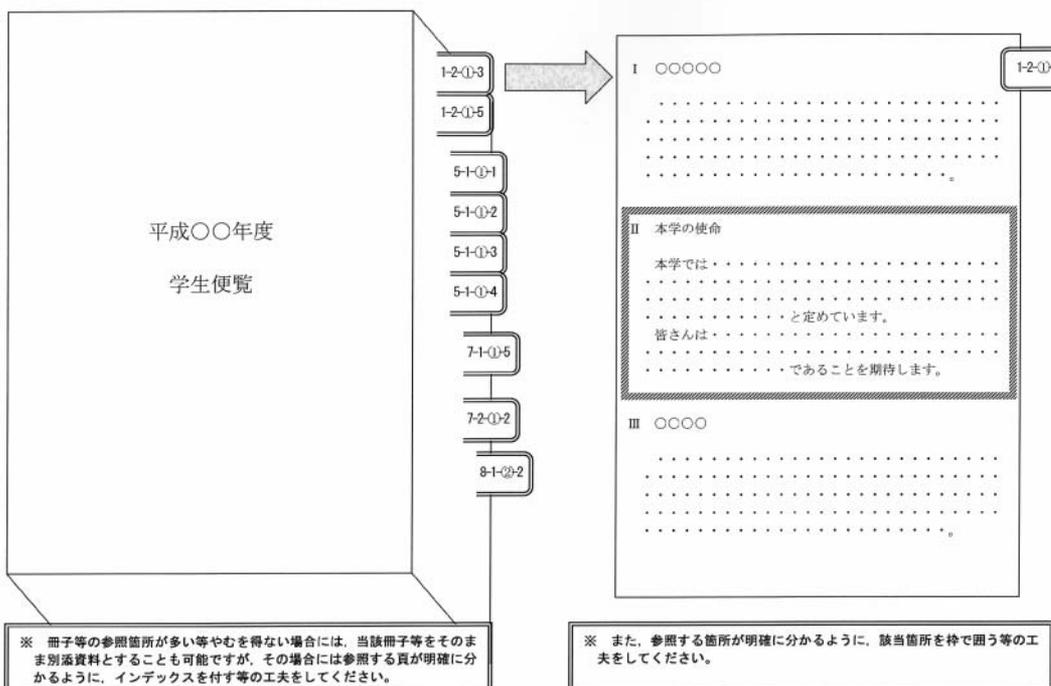
資料1-1-①-4
「教育研究活動を実施するうえの方針」策定の際の会議資料
(出典 平成△△年△月○○会議資料)

【分析結果とその根拠理由】

本校では、まず、学校が社会において担う基本的な役割として、高等専門学校の使命を定めている。また、学校及び学科ごとの養成する人材像を定めているが、これにはやや理念的で抽象的な表現も含まれているため、各学科において卒業時に身につけるべき資質・学力をより具体的に定めている。そして、これらを実現するために、

別添資料集イメージ 1





「分析結果とその根拠理由」の記述

- ・分析結果を当該観点にふさわしい表現を用いて
分かりやすく明確に記述 [Q&A Q92参照]
- ・分析結果を導いた理由を「観点到に係る状況」に記載した資料・データ等を摘示しつつ記述

(参考：自己評価書イメージ)

② ①の分析結果に基づき、当該観点に係る状況を、対象高等専門学校を踏まえつつ、当該観点に対応する判断方法を用いて判断してください。

その際、高等専門学校として一般的に期待される水準から見た対象高等専門学校の状況を以下の例示を参考にしつつ、判断してください。

対象高等専門学校 の状況	一般的に期待される 水準を卓越している	一般的に期待される 水準を上回る	一般的に期待される 水準である	一般的に期待される 水準を下回る
判断方法	優れた 実施状況である	十分に 実施している	実施している	実施していない
の例示	優れた 配慮がなされている	十分に 配慮されている	配慮されている	配慮されていない
	(…を) 定めている			(…を) 定めていない

分析に当たっての留意点

- ・学科・専攻科ごとの状況を示す必要がある場合は、
字数制限に留意の上、学科・専攻科ごとの状況に
関する記述や資料・データ等を示す

【Q&A Q13、89、93参照】

- ・目的を達成するための具体的な目標や計画を有し
ている場合には、その内容を明らかにした上で、
分析を行うことにより、評価に目標の達成状況を
反映させることが可能

【Q&A Q 87参照】

(2) 優れた点及び改善を要する点の記述

- ・基準ごとに観点の分析の中から目的を踏まえて、特に重要と思われる点を、「優れた点」、「改善を要する点」として抽出。

「優れた点」には、必ずしも成果としては十分達成されていないものの、独自の工夫を図った特色ある取り組みと判断されるものも抽出。

【評価実施手引書P9参照】

(3) 概要の記述

- ・基準ごとに観点の分析を整理・総合し、当該基準全体に係る自己評価の概要を記述
- ・評価報告書に原則として原文のまま掲載、公表
- ・当該基準全体に係る自己評価の状況を社会に分かりやすく示す

【Q & A Q98, 99参照】

選択的評価基準の自己評価

観点ごとの分析

優れた点及び改善を要する点の記述

概要の記述

基準1～11
の自己評価
に準ずる

目的の達成状況の判断

選択的評価基準に係る目的に照らし、「観点ごとの分析」の結果を総合した上で、4段階で判断

目的の達成状況が非常に優れている

目的の達成状況が良好である

目的の達成状況がおおむね良好である

目的の達成状況が不十分である

〇〇高等専門学校 選択的評価基準

選択的評価基準 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析
観点1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(資料1-〇)
「データ名」

(出典)

(資料1-〇)

自己評価書様式ファイルに記載されています。

目的との関連を踏まえ、取組や活動の内容等について、当該観点の状況が明確になるよう記述してください。

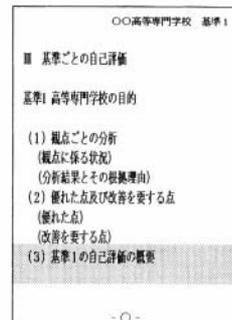
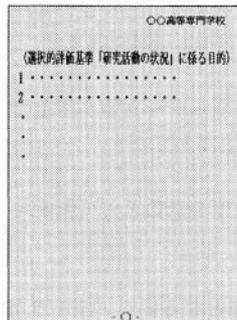
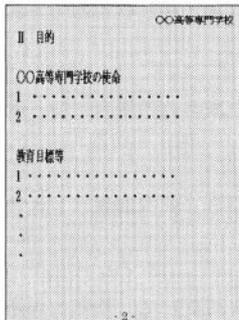
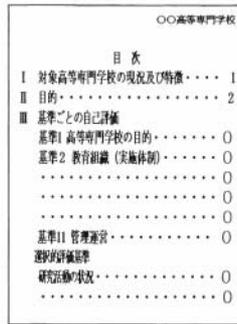
根拠となる資料・データ等は、状況説明等との関係が容易に確認できる位置に記載してください。(データ名、出典を必ず明記してください。)

目的の達成状況が非常に優れている	観点ごとの分析において、取組状況が非常に優れており、目的の達成状況が非常に優れていると判断される場合
目的の達成状況が良好である	観点ごとの分析において、取組状況が優れており、目的の達成状況が良好であると判断される場合
目的の達成状況がおおむね良好である	観点ごとの分析において、取組状況に改善すべきところはあるが、目的を達成する上で特に支障がなく、目的の達成状況がおおむね良好であると判断される場合
目的の達成状況が不十分である	観点ごとの分析において、取組状況に問題があり、目的の達成状況が不十分であると判断される場合

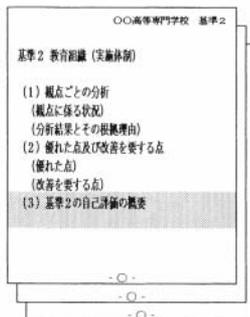
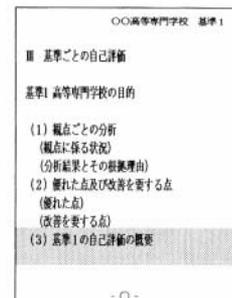
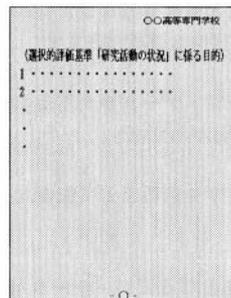
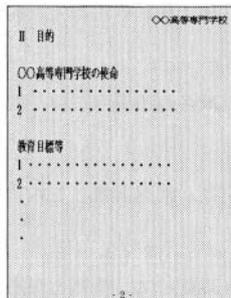
自己評価書の提出方法

- ・自己評価書 20部(両面印刷、表紙裏白)
- ・自己評価書の電子媒体 1部(3.5インチFD、MO又はCD-R)
「高等専門学校名」並びに「高等専門学校機関別認証評価」と記入したラベルを貼付
- ・提出締切 平成17年7月29日(金)必着
- ・提出先 大学評価・学位授与機構評価事業部
- ・封筒の表面の左側部に「高等専門学校機関別認証評価自己評価書在中」と朱書きで表示してください

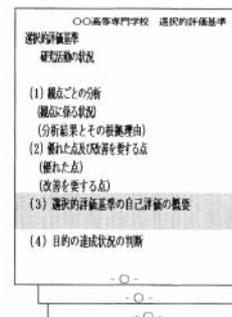
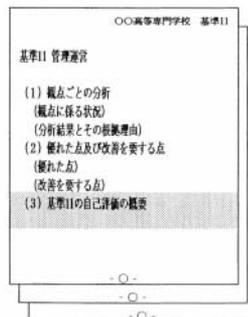
自己評価書全体のイメージ



37



(略)



注)  は、評価報告書に原則として原文のまま転載します。

38

おわりに

・自己評価は教育研究活動等の個性化や質的
充実に向けた高等専門学校の主体的取組
みの一環

・根拠資料・データに基づく、客観的な分析

評価担当者に対するわかりやすさ

・「対象高等専門学校の現況及び特徴」、「目
的」、「自己評価の概要」は、原文のまま評価
報告書に掲載、公表

社会に対するわかりやすさ